

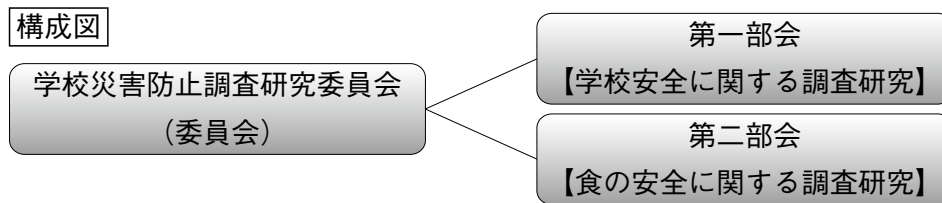
# 第1編 調査研究の趣旨と経過

## 第1章 学校災害防止調査研究委員会及び第二部会の設置

### I 設置の趣旨

独立行政法人日本スポーツ振興センター第二期中期計画に定める学校安全支援業務の実施に伴い、平成20年6月、センターに外部の有識者とセンター職員で構成する「学校災害防止調査研究委員会」（以下「委員会」という。）を設置した。

また、委員会の下部組織として、学校安全に関する調査研究を行う「第一部会」、学校における食の安全に関する調査研究を行う「第二部会」を設け、部会毎に調査研究のテーマを設定し、専門的な調査研究を行うこととした。委員会は、各部会での調査研究の経過及び結果について各部会から報告を受け、成果の検証を行う。



#### 【独立行政法人日本スポーツ振興センターの第二期中期計画より抜粋】

センター内部に外部の有識者を含めた「学校災害防止調査研究委員会」（以下「委員会」という。）を設け、災害共済給付業務の実施を通じて得られた学校の管理下の災害事例を分析し、学校における特徴的な災害について、その発生の防止方策について調査・研究を行い、学校やその設置者に成果の活用を働きかけ、当該災害の減少を図る。

### II 組織

#### 1 委員構成

委員会及び第二部会の委員として外部有識者とセンター職員を任命した。

また、文部科学省からアドバイザーを選任した。

加えて、災害共済給付のデータの分析、資料の収集等の作業を行うため、センター職員の中から部会調査員を指名した。

各委員、アドバイザー、部会調査員は以下のとおり。

#### 2 委員会委員

◎は委員長【平成23年3月31日現在】

氏名	所属・役職
戸田 芳雄	東京女子体育大学体育学部体育学科 教授
◎ 安井 利一	明海大学 学長
渡邊 正樹	東京学芸大学養護教育講座 教授
市場 祥子	社団法人全国学校栄養士協議会 会長
村田 光範	東京女子医科大学 名誉教授

(敬称略)

### 3 第二部会委員

◎は部会長【平成23年3月31日現在】

氏名	所属・役職
五十嵐利枝	静岡市立東源台小学校 栄養教諭
市場 祥子	社団法人全国学校栄養士協議会 会長
國府島勇三	独立行政法人日本スポーツ振興センター学校安全部
今井 孝成	独立行政法人国立病院機構相模原病院小児科 医師（医学博士）
岸根 美絵	三重県四日市市教育委員会 学校教育課 指導主事
栗原 和幸	神奈川県立こども医療センターアレルギー科 部長（医学博士）
小泉 聖子	千葉市立大蔵寺小学校 教頭
小出まゆみ	長野県教育委員会保健厚生課保健・安全係 指導主事
松崎くみ子	跡見学園女子大学大学院人文科学研究科 教授（臨床心理士）
◎ 村田 光範	東京女子医科大学 名誉教授
森 涼子	今治市立立花小学校 栄養教諭
山里 浩美	霧島市立舞鶴中学校 栄養教諭

（敬称略）

#### 《アドバイザー》

【平成23年3月31日現在】

田中 延子	文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課 学校給食調査官
-------	-------------------------------

（敬称略）

#### 《部会調査員》

【平成23年3月31日現在】

氏名	所属・役職
下山 雅人	独立行政法人日本スポーツ振興センター学校安全部
峯田 一弘	独立行政法人日本スポーツ振興センター学校安全部
諏佐 恭子	独立行政法人日本スポーツ振興センター学校安全部
浅沼久美子	独立行政法人日本スポーツ振興センター仙台支所
相馬 勝美	独立行政法人日本スポーツ振興センター東京支所
内藤 薫	独立行政法人日本スポーツ振興センター名古屋支所
井本 裕之	独立行政法人日本スポーツ振興センター大阪支所
三浦あかね	独立行政法人日本スポーツ振興センター広島支所
三浦 昌浩	独立行政法人日本スポーツ振興センター福岡支所

## 第2章 調査研究のテーマ設定、内容及び経過

### I 調査研究のテーマ設定

学校の管理下における食に関する災害事例のうち学校給食における食物アレルギー事例件数が平成17年度から平成20年度で804件発生している。

学校給食における食物アレルギーの災害事例のうち、死亡事故につながる重篤なアナフィラキシー事例が多数報告されている。このような状況を踏まえ、学校給食における食物アレルギーに関する対応策を講じることは児童生徒の安全を確保する観点から大変重要なことと考えテーマとした。

### II 調査研究の内容

調査研究の内容は、学校給食における食物アレルギーによる児童生徒の健康障害を効果的に防止し、万が一にも特定の児童生徒に食物アレルギーによる健康障害が発生した場合には、その被害を最小限に止める方策を検討することとした。

#### 1 特定の児童生徒に食物アレルギーによる健康障害が発生した場合に、その被害を最小限に止める方策

特定の児童生徒に生じる食物アレルギーによる健康障害には、軽度のものから生命に関わる重篤なものまで多種多様なものがあるので、食物アレルギーの中で最も重篤で生命の危険を伴うことがある「アナフィラキシー」に対する対応について検討することとした。

#### 2 学校の管理下における食物アレルギーによる児童生徒の健康障害を効果的に防止するための方策

食物アレルギーは「アレルゲンとなる特定の食材」を特定の児童生徒が摂取したり、ときにはこのアレルゲンが特定の児童生徒の皮膚や目や口などの粘膜に付着して生じるアレルギー反応である。したがって、食物アレルギーによって生じる健康障害を防止するには、対処的な手段ではあるが、アレルゲンと特定の児童生徒との接触を断つことが重要である。そこで、学校給食における食材の流れを考えて、この食材の流れの各段階において、アレルゲンと特定の児童生徒の接触を断つための方策を検討することとした。さらに、学校給食以外での対応も検討課題とした。

- (1) 学校全体の取組
- (2) 学校給食全体の留意事項
- (3) 学校給食以外の家庭科の調理実習、体験学習、修学旅行等の学校行事でのアレルギーへの対応

### III 調査研究の経過

#### 1 平成21年度

第二部会の調査研究期間は平成21・22年度の2か年間とした。初年度の平成21年度においては、7月24日の第1回部会会議以降、合計3回の部会会議を開催した。

調査研究の進め方としては、まず学校給食におけるアレルギーの実態について把握することからはじめ、センターが行っている学校の管理下における災害共済給付事業から得られる事例を基に「学校給食におけるアレルギーの集計」を行った（集計結果については第2編集計分析の結果に示すため、学校種を小学校と中学校に限定した。）。

(1) データの抽出

① 「傷病名」項目抽出

平成17年度から20年度の給付データより傷病名「アレルギー、アナフィラキシー、ジンマシン」に該当するデータを抽出した。

② 「災害発生時の状況」項目抽出

①で抽出したデータについて、「災害発生時の状況」及び「傷病名」から、「学校給食における食物アレルギーデータ」と考えられないものについて削除し、残った804件（平成17年度160件、平成18年度213件、平成19年度201件、平成20年度230件）を「学校給食における食物アレルギーデータ」とした。

(2) 4カ年（平成17年度～平成20年度）合計抽出データの集計

① 性別集計

男子、女子の性別集計

② 学校種別集計

小学校、中学校の学校種別集計

③ 学年別集計

小学校1年生～6年生、中学校1年生～3年生の学年別集計

④ 月別集計

1～12月の月別集計

⑤ 曜日別集計

月曜日～金曜日の曜日別集計

⑥ 時間帯別集計

24時間による15分幅別集計

⑦ 場所別集計

共済給付制度分類による場所別集計

⑧ 指導名称別集計

共済給付制度分類による指導名称別集計

⑨ 運動指導名称別集計

共済給付制度分類による運動指導名称別集計

⑩ 部位別集計

共済給付制度分類による部位別集計

⑪ 傷病名別集計

診療医の表記による傷病名集計（重複あり）

⑫ 食品別集計

厚生労働省食品衛生法表示制度（アレルギー物質を含む食品に関する表示について）を参考とした食品別集計（重複あり）

⑬ 症状別集計

共済給付データの災害発生時の状況欄記載別による集計（重複あり）

⑭ 発生件数年度別集計

平成17年度から平成20年度までの発生件数の推移

⑮ 複数災害発生児童生徒数

これらの集計結果から、傷病名別集計ではアレルギーに次いでアナフィラキシー及びアナフィラキシーショック、食物依存性運動誘発アナフィラキシーの順になっているが、アナフィラキシーが多く、死亡事故につながる重篤なアナフィラキシーに対応することが重要であると考え、平成 21 年度は、調査研究内容の中間報告として「アナフィラキシー対応マニュアル」を作成した。

## 2 平成 22 年度

平成 22 年度は、5 月 17 日の第 4 回部会会議以降、合計 6 回の部会会議を開催した。

学校の管理下におけるアレルギー対応として、学校給食を中心に食材の流れに沿い食材納入から児童生徒の口に入るまでの流れを考え、献立作成、献立表作成、発注・検収、調理作業、配食・配膳、給食喫食、片付けまでの重要なポイント別に検討した。

また、食物アレルギー対応は、学校給食以外の家庭科等の調理実習、体験学習、修学旅行等の学校行事でも事故は発生しており対応を検討した。

平成 23 年 3 月に親委員会を開催し、研究成果の総括を行った。さらに、学校現場で広く活用されるようわかりやすい DVD 作成のための企画・検討を行った。